

18歳以上の外来通院者の リハビリテーションおよび 在宅サービスの利用について (アンケート調査報告)

リハビリテーション技術部
工藤久江
岩間真弓

拓桃医療療育センター



目的：状況の把握

- 1 障害の重い人を，家族のみでサポートしていないか(在宅サービス利用状況)
- 2 リハビリテーション利用状況について
- 3 サービス利用のない人の状況について

調査対象及び方法

対象：平成25年9月～11月に来院し、外来でPT・OT・STのいずれかを行った18歳以上の人
112名

方法：対象者・家族等によるアンケートの記入
及び担当セラピストによる記入・聞き取り

調査内容

- ① 対象者及び介護者について
- ② 当センターの利用状況について
- ③ 当センター以外のリハビリテーションの実施状況について
- ④ 在宅サービスの利用状況について

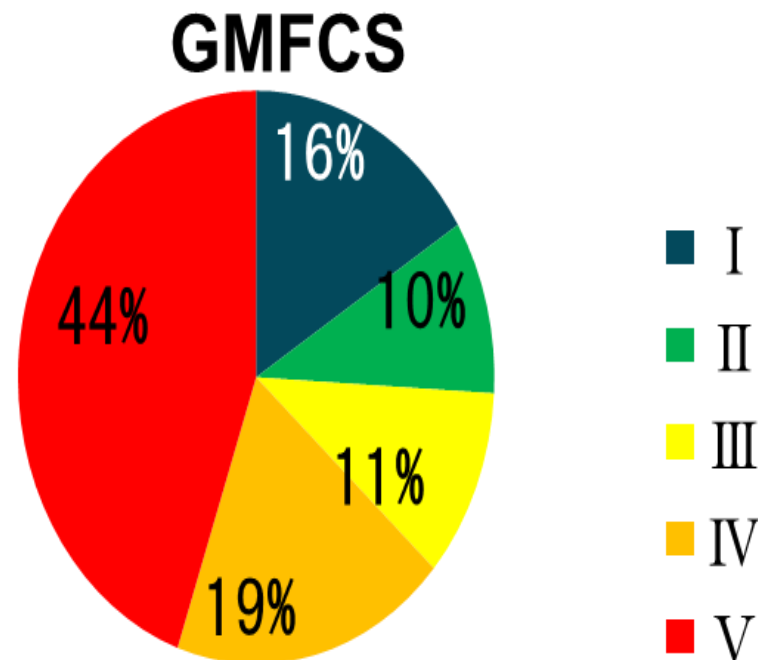
結果：対象者及び介護者について

- 年齢：平均25.1歳 20代67% 分布18～61歳
- 疾患分類：中枢疾患92%
- 障害者手帳：1級66%
- 療育手帳：A63%・B9%
- 医療行為：あり23%

結果：対象者運動能力

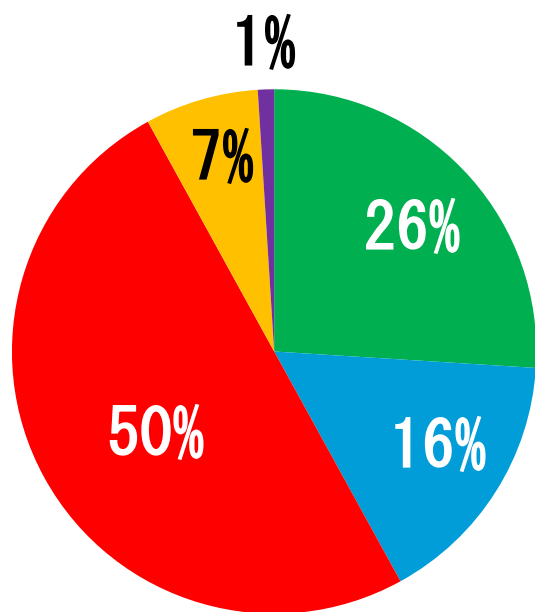
GMFCS: Gross Motor Function Classification System

| 粗大運動能力分類 | |
|----------|-------------------------------|
| I | 制限なしに歩く |
| II | 補助具なしに歩く:屋外と近隣を歩く際制限あり |
| III | 補助具を用いて歩く:屋外と近隣を歩く際制限あり |
| IV | 自力移動が制限:屋外・近隣では移送されるか電動車いすを使う |
| V | 補助器具を使っても自力移動が非常に制限されている。 |

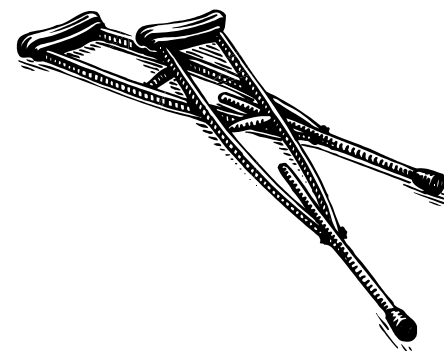


GMFCS: V が44

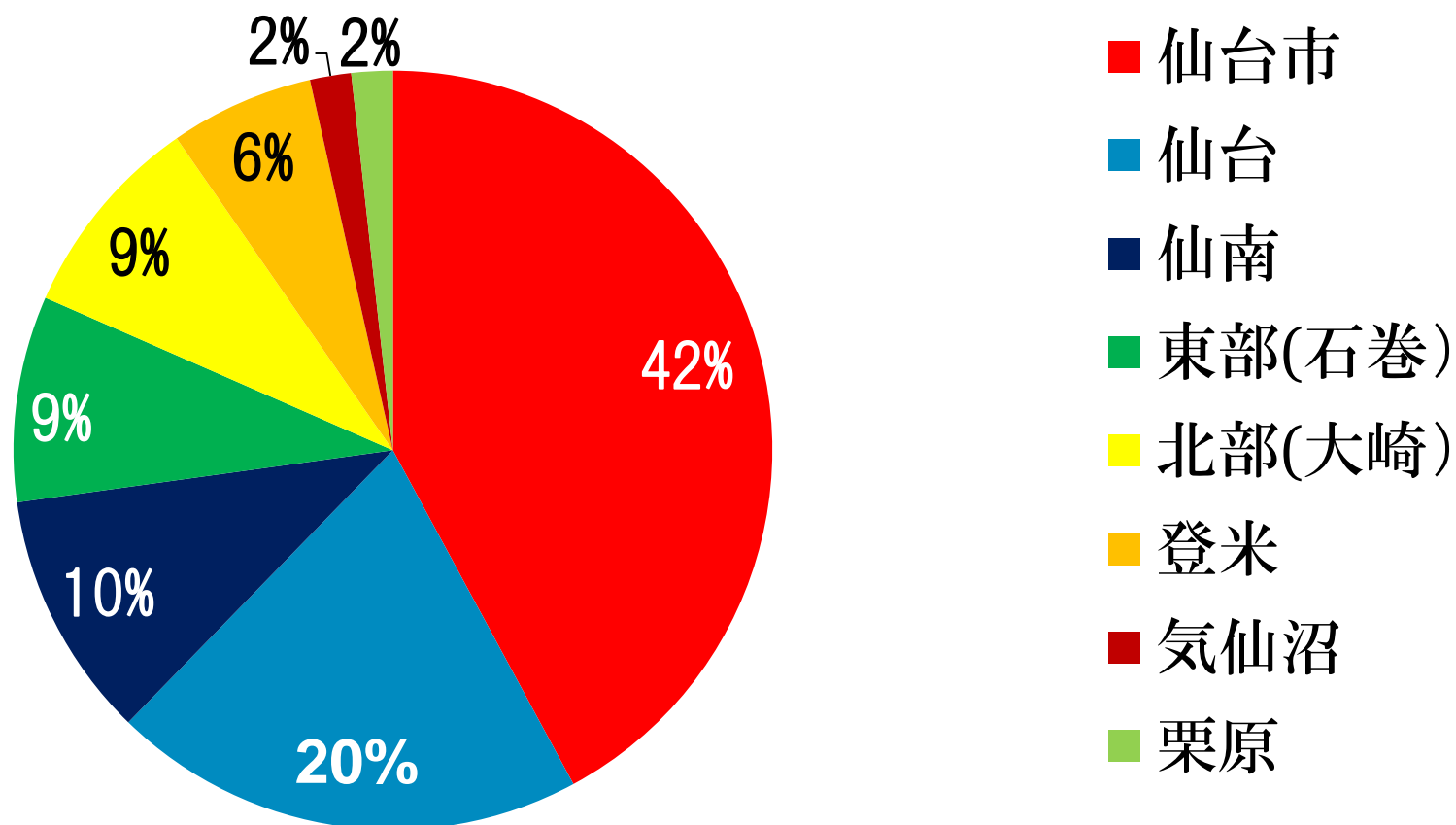
結果：対象者移動手段



- 歩行中心
- 自走車いす
- 介助用車いす
- 電動車いす
- 併用



結果：対象者居住圏域



結果：介護者について

- ・介護者：母72%・父20%・ヘルパー4%
- ・年齢：50代59%
- ・就業おおよそ40% 無職55%

結果：当センターの利用状況

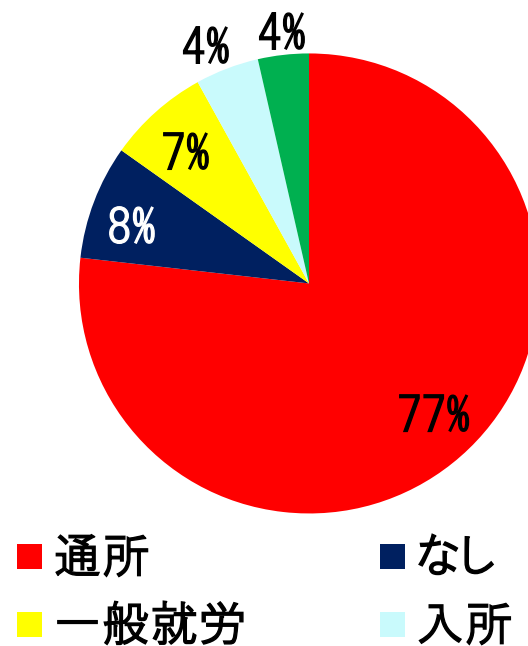
- ・リハ実施内訳：PT84% OT13% ST3%
- ・リハ実施期間：10年以上89% 5～10年7%
- ・受診科目：整形外科106人 小児科47人 歯科14人
泌尿器科4人 薬処方26人 物品14人
- * GMFM V 50人中、医療機関の利用が当センターのみ
の人28%
- ・通院時間：1時間以内が65%
- ・通院手段：自家用車94% 移送サービス2%

結果：当センター以外の リハビリテーション実施状況

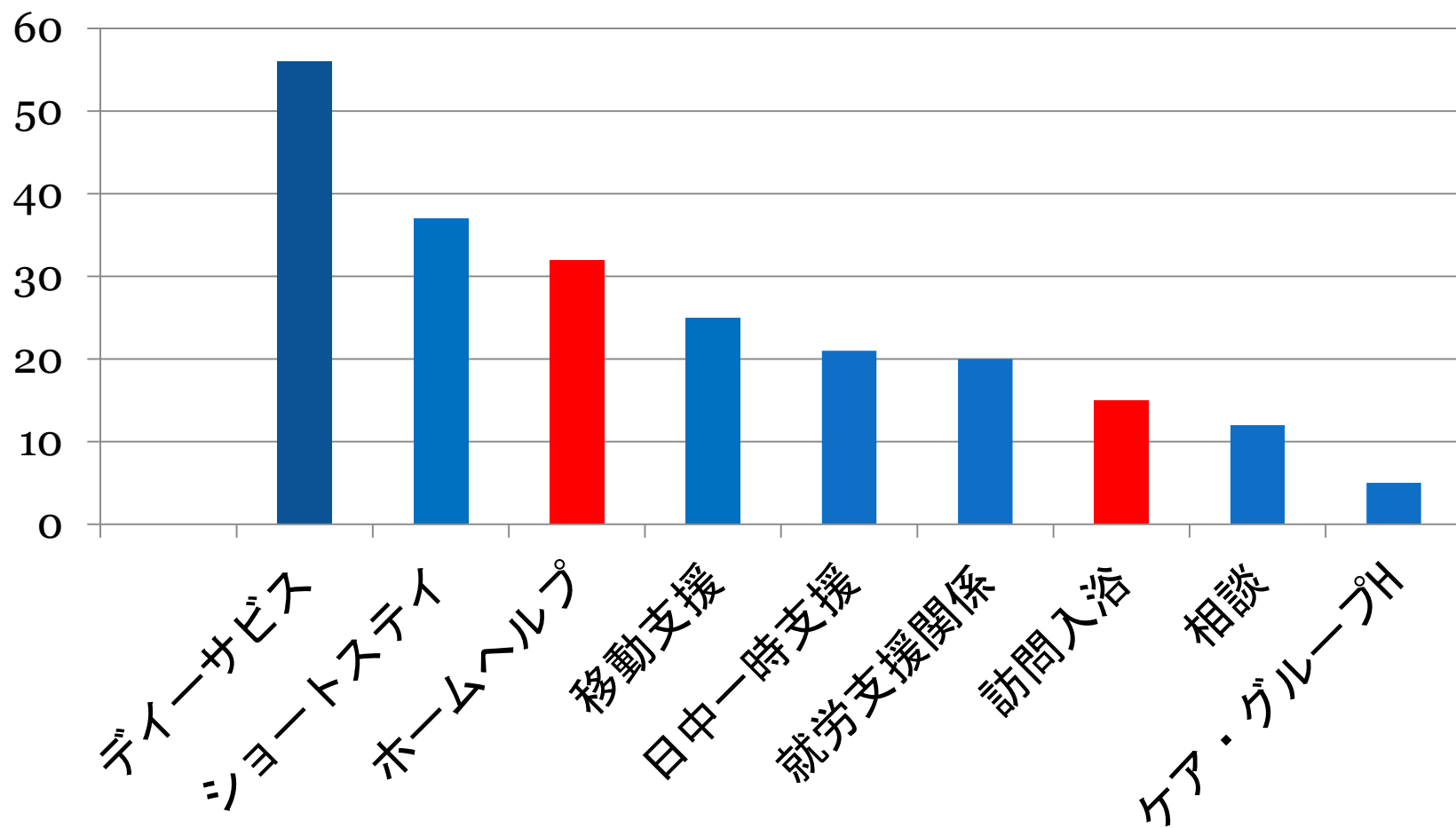
- ・リハ実施状況：約18%(20名)
- ・開始きっかけ：自分で探した38%(5名)
- ・地域：栗原圏域以外では利用されていた
 - * 仙台市：松田訪看、あおい訪看、フォーレスト、郡山訪看
仙台クローバークリニック、エコー療育園
 - * 仙台市外：気仙沼病院、登米豊里訪看、涌谷町国保病院
ひまわり訪看(石巻)、岩手県ふじさわ訪看(登米)
フォーレスト(多賀城)、県リハ支援センター(名取)
 - * 通所施設：白石市：とも、大和町：ふわり

結果：在宅サービス利用状況 所属

- デイサービスや、授産施設等に通所している人は77%
- 所属なしの人は8%
- 一般就労の人は7%



利用者サービス内訳（複数回答・237件）



サービス利用・所属なしの人

| | 疾患名 障害名 | GM FC S | 状況 |
|---|--------------|---------------|-------------------------------|
| A | 脳性まひ 四肢まひ | IV | ボランティア活動で外出多い。 サービス利用希望あり。 |
| B | 脳性まひ 両まひ | III | 家族で可能なため、サービスの 必要性を感じていない。 |
| C | 二分脊椎 | II | 通所に行くが辞める。 |
| D | 二分脊椎 | III | 地元高校卒業後、自宅。 母の職場に同行。 |

考察

- 重度の障害を持つGMFCS Vの対象者は、何らかのサービスを100%利用。介助量・家族の負担が大きいため居住地域に関わらず利用されている。
- リハについて、栗原を除く圏域の医療機関・通所施設で利用していた。今後、加齢により通院困難で、地域でのリハを希望されることが予測される。

→情報提供が必要。

考察

- 所属・サービス利用のない人：運動機能は比較的良いが、本人の希望するサービスがなく、あきらめてしまい探せない状況。
 - 何らかのサービス利用から、関係スタッフのかかわりで、ニーズが見つかり、地元のサービスに結びつき、生活範囲の拡大が期待できる。
- 相談機関との結びつきを

まとめ

- 障害の重い人（GMFCS V）は、ほぼ地域差なく100%何らかのサービスを利用していた。
- リハを実施している人は20%であったが、対象者の居住地には何らかの資源があることが分かった。
- サービスを利用していない人は4名であった。